

悠久よりの愛

脱ダム新時代



ダムは人々の暮らしを豊かにしたのか

日本全国で2700以上も存在するダム——
水害などの自然災害が急増・甚大化する中、
われわれに必要なのは“ダム増強”か“脱ダム”か？
悠久の自然と人との共存を模索するドキュメンタリー



監督編集 金子サトシ プロデューサー 矢間秀次郎 撮影 能勢 広 金子サトシ、かまこ 録音 奥井 謙哉 ナレーション 金子あい 配給 水の映像フォーラム 製作 著作 映画「悠久よりの愛」製作委員会 2021年 日本 110分

ダムで川を堰き止めるのは、人類の未来を阻害すること(高山重篤氏)
 公共事業は法に叶い、理に叶い、情に叶うものでなければならぬ

日本列島には109水系、3万4千以上もの河川が流れている。

しかし、自然に貫流する河川は釧路川などわずか数箇所しかない。日本は敗戦からの復興、食糧増産、工業立国をめざす中、1961年に水資源開発促進法を制定、河川を水資源とみなし、鉄とセメントの河川工作物(ダム)建設を促進したからだ。いまや2753基にのぼるダムによって多くの河川が「自然改変」されている。昨今の大水害は、ダムがゲリラ豪雨などに対応できず、ダム本体を守る「緊急放流」で流域住民の命をも呑み込む「大蛇」のようにのたうつ、河川の瀕死の姿ともいえる。そんな中、熊本県球磨川の「荒瀬ダム」が6年余りの工事と84億円の費用をかけて2018年に撤去された。日本初の偉業で、ダム湖は姿を消し、戻った水流にはラフティングに興じる子供たちの歓声、夜には仕掛けた籠にモクスガニが……。

日本の高度経済成長の一翼を担ってきた公共事業は一体誰のためのものなのか。



各地のダムで分断・翻弄される現地の人びとの思い
 ダムに埋もれた歴史を掘り起こす珠玉のドキュメンタリー

歌人・熊谷龍子の短歌「森は海を 海は森を恋いながら 悠久よりの愛 紡ぎゆく」にあるように、「森は海の恋人」でまさにダムは森と海の恋路を邪魔する「横恋慕」ともいえる。

ダム建設で生まれた人造湖が各地に点在し、湖面に映える山容に「美しい風景」を感じ眺望を楽しむ人がいる一方、ダムに沈んだ村の歴史や文化、自然、里人の無念に思いをめぐらす人は少ない。ハツ場ダム(群馬県)や荒瀬ダム(熊本県)、石木ダム(長崎県)などの地域にカメラを向け、人々の声に耳を澄ます。本作は次世代へ川のあるべき姿、人本来の生き方のヒントを丁寧に映像で紡ぐ。



石木ダム(長崎県)

土地・家屋を強制収用されても建設計画に抗う13世帯

荒瀬ダム(熊本県)

日本初のダム撤去はなぜ実現したのか(瀬戸石ダム/川辺川ダム)

鴨川ダム(京都府)

京都1000年の文化をかけて撤回させた反対闘争

新月ダム(宮城県)

建設計画を阻止した「森は海の恋人」植樹祭

ハツ場ダム(群馬県)

歴史にみる「官の非情」ハツ場ダムは大丈夫か

玉淀ダム(埼玉県)

首都圏の荒川で撤去促進期成同盟が地道な運動を展開中

そのほかナレーションで北海道・赤岩ダム、愛知県・設楽ダム、徳島県・細川内ダム、熊本県・立野ダムなども紹介。

(室原知幸氏)

監督・編集: 金子サトシ「食卓の肖像」 プロデューサー: 矢間秀次郎 撮影: 能勢 広、金子サトシ、かざこ 録音: 奥井義哉 スチール: かざこ ナレーション: 金子あい ポスプロデスク: 原田 修
 録音スタジオ: (株)モイ 法務: 竹澤克己(弁護士) 宣伝美術: 追川恵子 宣伝協力: きろくびと 配給: 水の映像フォーラム 製作・著作: 映画「悠久よりの愛」製作委員会 2021年/日本/110分
<https://yukyuyorinoai.art.blog/>

3月3日(木) 小金井宮地楽器1階ホール (JR中央線「武蔵小金井駅」南口)

①昼の部=14:00~ ②夜の部=18:30~ 各30分前開場、各終了後に監督が舞台挨拶

■主 催: 映画「悠久よりの愛」小金井上映会

■入場料:1500円 パンフレット付

■予約制: FAX 042-381-7770又はメール h-yazama@oregano.ocn.ne.jpでご芳名・住所・昼夜の区別・人数を明記して申し込み。各定員75人で締切

